



第45期事業報告書

2005年4月1日～2006年3月31日

CONTENTS

企業理念	2
決算ハイライト	3
株主の皆様へ	4
営業活動のご報告	6
トピックス	7
特集1 IKMEでホールガーメント [®] の 魅力をアピール	8
特集2 新工場FA(Factory Amenity) 2号棟が完成しました	10
株主優待のご紹介	12
株主様アンケート結果のご報告	13
連結財務諸表	16
会社概要	18
株式概要	19



Ever Onward

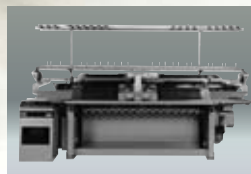
限りなき前進

全自動手袋編機の開発を原点とする当社は、創業当初から『世界初』の製品づくりという目標を掲げるとともに、『Ever Onward—限りなき前進』を経営理念とし、創意と工夫により最高機能の製品を経済的な価格でお届けすることを基本に、常に顧客の立場に立ち、ニーズを先取りした製品開発を行ってまいりました。

さらに人々の生活に欠くことのできない「衣」の分野において、労働集約型産業から知識集約型産業への転換を促し、今までにない魅力ある商品づくりや新しいビジネスモデルを業界に提案すべく、独自の技術開発に全力をあげており、ハードウェア、ソフトウェアに加え、ノウハウ、デザインまでも包含した総合的なサービスと情報を提供し、ファッション産業をはじめとするユーザー業界の活性化に貢献するとともに、新しい衣の文化を創造し、世界中の人々の心を豊かにすることを目指しています。

総合メカトロニクス企業として、独創性あふれるトータルソリューションを企画提案し、新たな『創造』にチャレンジし続ける当社に、より一層のご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1965
全自動手袋編機を開発



1978
シマトロニック・ジャカード・コンピュータ
横編機SNCを開発

1981
シマトロニック・デザインシステム
SDS-1000を開発



1995
世界初の完全無縫製型
コンピュータ横編機SWGを開発

2005

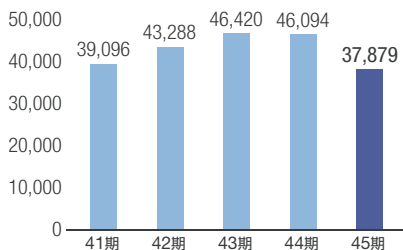
ホールガーメント®横編機発売10周年を
記念したファッションショーを開催



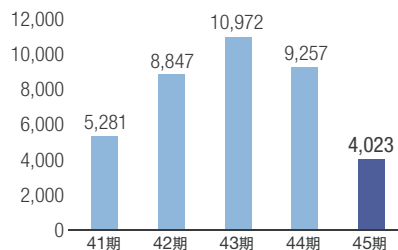
決算ハイライト (連結)

科 目	当 期 2006年3月期	前 期 2005年3月期	前期比
売上高 (百万円)	37,879	46,094	△17.8%
営業利益 (百万円)	4,023	9,257	△56.5%
経常利益 (百万円)	5,634	9,363	△39.8%
当期純利益 (百万円)	3,404	5,930	△42.6%
1株当たり当期純利益 (円)	91.92	159.97	△42.5%
総資産 (百万円)	109,302	107,234	+1.9%
株主資本 (百万円)	95,330	92,115	+3.5%

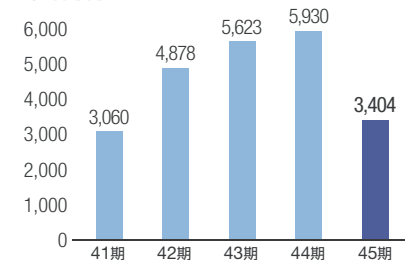
売上高 (単位:百万円)



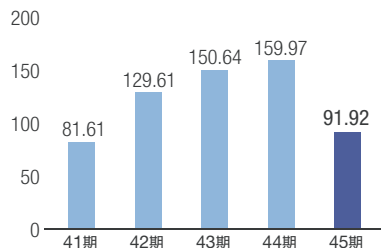
営業利益 (単位:百万円)



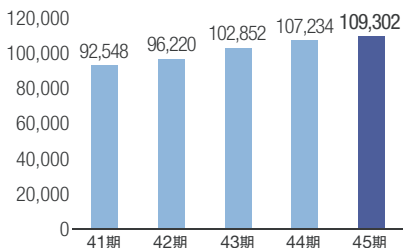
当期純利益 (単位:百万円)



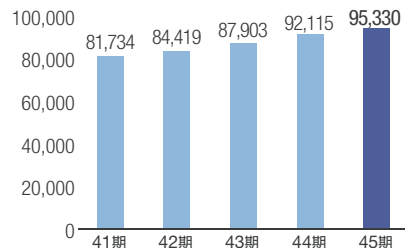
1株当たり当期純利益 (単位:円)



総資産 (単位:百万円)



株主資本 (単位:百万円)



■ 将来の見通しについて ■

本事業報告書に記載されている将来に関する予測については、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて行った予測であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これら予測とは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

第45期の業績のご報告と今後のビジョン

ニット・アパレル業界における市場環境の混乱により、
当社の業績も大きな影響を受けましたが、
業界は新たな秩序のもと安定を取り戻しつつあります。

代表取締役社長 島 正博



Q. 第45期の業績の概要を説明してください。

当期は、繊維製品の輸入割当制限解除(クォータフリー)によって、世界の繊維業界が混乱を極めた1年でした。当社にとっても非常に厳しい市場環境となりました。

クォータフリーによる中国からの繊維製品の輸出は、当初の予測を大きく上回り、消費地である欧米では貿易摩擦に発展しました。影響は労働集約型市場である中東のトルコほか世界各国に及び、中国においても欧米との貿易摩擦問題が解消されるまで、設備投資が停滞しました。

一方、国内市場でも、欧米への輸出が制限された中国から、さらに大量の製品が流れ込んだため、業界は大きな影響を受けました。

こうした状況のなか、当社グループはコストダウンをはじめとする製品競争力の向上に努めましたが、世界的に買い控えの状況が続きました。クォータフリーによる混乱が当社の業績に与えた影響は大きく、当期の連結売上高は378億79百万円(前期比17.8%減)となりました。

しかしながら、米国と中国との政府間交渉が合意に達した昨年11月以降は、受注状況に回復感が見られました。

利益面では、売上高の減少に加えて、ホールガーメント®(無縫製ニット)横編機発売10周年を記念したファッションショーの開催や、イタリア・ミラノで開催されたIKME(国際ニット機械見本市)への出展などの先行投資および開発投資の増加等によって、営業利益は40億23百万円(前期比56.5%減)となりました。経常利益は為替相場が円安傾向に推移し、為替差益が発生したことから減少幅が緩和され、56億34百万円(前期比39.8%減)となりました。当期純利益は、固定資産の減損損失の計上に伴い、34億4百万円(前期比42.6%減)となりました。

Q. 配当に対する基本方針を聞かせてください。

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけており、長期にわたる安定配当を基本方針としております。

当期は営業利益が大きく減少しましたが、基本方針に則り、期末配

当金につきましては、当初の予定通り1株につき20円の普通配当とし、すでに実施済みの中間配当金(1株につき17円50銭)を加え、通期で1株につき37円50銭の配当とさせていただきます。

Q.ホールゲーム®横編機の販売戦略はどのように展開しましたか。

ホールゲーム®横編機は昨年、発売から10周年の節目を迎えました。この10年というのは、従来の編機の発想とは全く違う無縫製横編機の価値を、ニット・アパレルメーカーに理解いただくために必要な期間であったと考えています。省力化・コストダウンを図る編機ではなく、「着心地のよさと新鮮なデザイン力で高い満足感を提供できる高付加価値編機」との認識を十分に浸透させるためには、単に機械を売るだけではなく、「その機械を使って何ができるか」を理解していただくことが必要だったからです。

当期に開催したファッションショーやIKMEでは、ホールゲーム®横編機とデザインシステムが可能とする新しいニットの魅力をフルラインアップでアピールし、高い評価のもと欧米ニット・アパレルメーカーの意識



を大きく変えることができたと考えております。特に米国では、アパレル産業が集積するニューヨークを中心にホールゲーム®の浸透に向け、情報発信を行っており、その成果も現れはじめています。



Q.次期の業績見通しと株主の皆様へのメッセージをお願いします。

世界の繊維業界はひとまず混乱を収拾し、新たな秩序の構築へと向かいはじめました。この中で、ポリウムゾーンの繊維生産国としての中国市場の重要性はますます高まっていくものと考えます。当社グループも経営資源を積極的に投入することで、最大市場に応じた技術サービス体制を強化していきます。

一方、中国との競争が厳しい欧州などの消費地のニット・アパレルメーカーの間では、ホールゲーム®横編機によるモノづくりのメリットが浸透してきており、引合いは回復しつつあります。

国内では、ホールゲーム®製品の店頭での普及が進み、ファッションショーの効果が現れてきていますが、中国からの輸入品攻勢により、依然として厳しい状況が続くものと予想します。

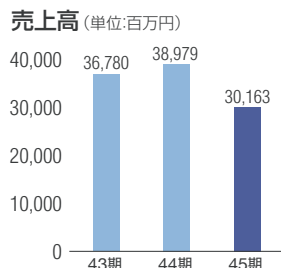
次期の業績見通しは、売上高410億円、営業利益60億円、経常利益60億円、当期純利益40億円を計画しております。

中長期的には、中国を中心とした労働集約型市場の高品質化と、ホールゲーム®横編機による魅力あふれる市場創造を両立させることで、業績の向上に努めてまいります。

当期は二度にわたり業績予想を下方修正するにいたり、株主の皆様には大変ご心配をおかけいたしました。今後も長期的な視点から、当社事業の進捗と成果にご期待いただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



横編機事業



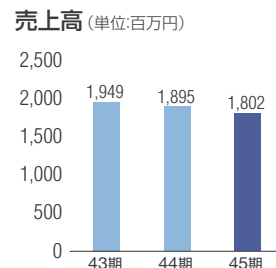
主力とする横編機事業では、世界的な二極化が進む中、「労働集約型市場」の最大拠点である中国、香港においては、生産体制の効率化の進展に伴いコンピュータ横編機の需要は拡大基調にあります。しかし当期においては、急激な輸出増加に対する欧米の対抗措置および政府の輸出自主規制政策を受けて停滞し、不安定な推移となりました。上期堅調であった中東のトルコでも下期以降、欧州やロシアに対する中国製品との価格競争が影響し、売上は落込みました。

一方、欧州、日本などの「消費地型市場」に対しては、ファッションショーを日本で開催し、先進国の業界に魅力あふれるサンプルを多数提案しました。またミラノで開催されたIKMEでは、消費地型ニット・アパレル業界にホールガーメント®横編機をはじめとした新機種によるトータルソリューションを提案し、高い評価を受けました。これを受注に直結させるべくイタリアを中心にホールガーメント®横編機の拡販に傾注しましたが、クォータフリーの影響が大きく、期待した成果は得られませんでした。

国内市場では、ファッションショー開催後のホールガーメント®による市場活性化を目指し、精力的な顧客フォローを継続しましたが、輸入ニット製品の増加や衣料品の低価格化傾向といった厳しい業界環境の中で、設備投資は低調な推移となりました。

これらの結果、横編機事業における売上高は301億63百万円(前期比22.6%減)となりました。

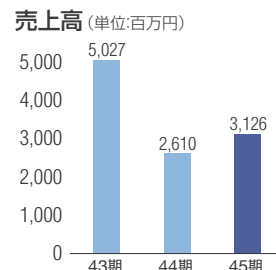
デザインシステム関連事業



デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界におけるトータルソリューションの核となるツールとして、時間短縮とコスト削減を実現したバーチャルサンプルなど新機能の拡充を図りました。

こうした高機能性と操作性を前面に打ち出した「SDS-ONE」の提案販売に傾注しましたが、海外および国内市場ともに前期を若干下回るペースで推移し、売上高は18億2百万円(前期比4.9%減)となりました。

手袋靴下編機事業



手袋靴下編機事業では、中国市場における模倣機の影響があったものの、作業手袋分野において主力市場である韓国市場の回復に加え、アジアの新興国での生産が拡大したことから、売上高は31億26百万円(前期比19.8%増)となりました。

第45期(2005年4月1日～2006年3月31日)の取組み

この1年間、当社グループでは次のような様々な取組みを行ってまいりました。

2005

- 4月 1日 **組織** 株式会社海南精密が連結子会社に
5月 18日 **展示会** 国際アパレルマシンショー(JIAM2005)に出展【大阪】



- 6月 3日 **展示会** 第11回上海国際紡織工業展覧会(上海テックス)に出展
23日 **新製品** 無製版プリントシステムSIP-160Fを初出荷
29日 **組織** 第44回定時株主総会を開催し、八杉昌利氏を社外監査役に選任

- 7月 13日 **受賞** 「日本赤十字社金色有功章」を受章
29日 **展示会** ホールガーメント®10周年記念イベント開催
下旬 **CSR** オペラ「蝶々夫人」(愛知万博他で開催)の公演に協賛

- 8月 30日 **展示会** 中国国際縫製設備展覧会(CISMA2005)に出展

- 9月 28日 **受賞** 「緑化優良工場等表彰(財)日本緑化センター会長賞」を受賞



- 10月 17日 **展示会** アジア国際繊維機械展覧会(ITMA ASIA 2005)に出展【シンガポール】

- 28日 **新製品** 経糸編成と緯糸編成が可能なハイブリッド横編機LAPIS、バリエーションを拡大したホールガーメント®横編機などを発表

- 11月 1日 **その他** 中国・上海に現地法人希摩(上海)貿易有限公司を設立
展示会 イタリアン・ヤーン・ランデヴーに出展【東京】



- 18日 **展示会** 国際ニット機械見本市(IKME)に出展【イタリア】

- 12月 9日 **その他** 新工場FA2号棟竣工

2006

- 2月 1日 **展示会** PITTI IMMAGINE FILATI展に出展【イタリア】
3・13日 **新製品** SWG-Xの新機種として173-5ゲージ、174-12ゲージを相次いで初出荷
24日 **新製品** 複合機能を搭載したハイブリッド横編機LAPISを初出荷



- 3月 13日 **展示会** 第7回スピンエキスポに出展【上海】
31日 **新製品** 超高速一枚裁ち自動裁断機P-CAM160を初出荷



世界最大の編機展示会

IKMEで

ホールゲーム®の魅力アピール



当社は2005年11月18日～22日、イタリア・ミラノで開催され、225社が参加した世界最大の国際ニット機械見本市「IKME」に出展いたしました。今回の出展は、「新鮮・魅力・革新」をテーマに、先進国消費地における新しいモノづくりの提案を通じて業界の活性化を進め、ホールゲーム®横編機をはじめとする当社製品のさらなる浸透・拡販を図ることを目的としたものです。

見本市の行われたフィエラミラノ会場では、ホールゲーム®横編機のフラッグシップ機であるSWG-Xや、次世代コンピュータ横編機FIRSTを中心に、バリエーションを拡大して展示。さらに周辺装置として「エアースプライサー」を搭載することで魅力ある多色編成を可能としました。また経糸(たていと)・緯糸(よこいと)編成が可能なハイブリッド横編機「LAPIS」を初公開するとともに、企画から生産・販促までのトータルソリューションを実現するデザインシステム「SDS・ONE」などを紹介しました。さらに見本市会場に加え、当社ミラノデザインセンターで

も数多くのサンプルを展示し、多くの来場者でにぎわいました。

出展した新機種については、欧州のアパレルメーカーなどから、新機能、効率性の向上、バリエーションの拡大などについて非常に高い評価を受け、今後の販売活動において好感触を得ることができました。

ホールゲーム®は、マックスマラやグッチ、エルメスなど世界のトップブランドをはじめ、レディスのみならず、ベネトンやナイキといったカジュアル・スポーツブランドでも採用が進んでいますが、その人気はIKMEでも裏づけられた結果となりました。さらに展示会後に訪問したアメリカの大手アパレルメーカーからは、ホールゲーム®のサンプルに対して、その着心地は「セカンドスキン(第二の肌)のようだ」と絶賛されました。今後もヨーロッパ、日本に加え、アメリカ市場の三大消費地を中心にホールゲーム®の世界戦略を展開していきます。



たくさんの来場者でにぎわい、
当社ブースは活況を呈しました。



IKMEの他にも、
世界中の展示会で
高い経済性と先進の
技術力が評価されました。



2005.6
第11回上海テックスに出展



2005.10
ITMA ASIA 2005に出展



2006.2
PITTI IMMAGINE FILATI
に出展

ホールガーメント®誕生 In Japan 10周年記念イベントを開催しました。

2005年夏、和歌山ビッグホエールにて、ホールガーメント®の誕生10周年を記念するとともに、世界に例のない感性を刺激するイベントとして、ホールガーメント®先進国である「日本とイタリア」をテーマに両国のコラボレーションによるファッションショーを開催しました。会期中には国内外から約2,000名の業界の方々に来場いただき、500点以上の当社オリジナルサンプルを目の当たりにされた来場者の多くから、当社の技術力・企画提案力を高く評価いただきました。

スポーツのホールガーメント®を見て、インナーにも通じることが確認できたので、新規でホールガーメント®を検討したい。(アパレルメーカー)

サンプルはすぐに売場に出せそうなものばかりで感動！ホールガーメント®に大きな可能性を感じます。(アパレルメーカー)

ホールガーメント®製品を店頭に並べれば、お客様との会話はすみそうです。(百貨店)



10 Years
WHOLEGARMENT® A DECADE OF INNOVATION

透かし柄のニットが気に入った。ホールガーメント®なら、輸入品との差別化に適したニットがつけられそうだ。(ニットメーカー)

ホールガーメント®には、ブランドの顔となるような商品にふさわしい魅力がある。(アパレルメーカー)





新工場FA (Factory Amenity) 2号棟が完成しました

2005年12月、本社敷地内に、新工場「FA (Factory Amenity) 2号棟」が竣工し、生産を開始しました。新工場は、当社の主力製品であるホールガーメント®横編機、コンピュータ横編機の生産能力を拡大し、受注に対しフレキシブルな対応を可能とするため、同年3月に着工したものです。鉄骨造り平屋建て、本体部分床面積5,925㎡の建屋に、「地球環境に配慮した省エネルギーと人にやさしく快適な次世代工場」をコンセプトとした、さまざまな工夫がもりこまれています。

たとえば、屋根から自然光を豊富に採り入れることができるトップライト構造と、無段階調光センサーを採用したインバーター照明により、工場内は明るく均一な照度が確保されています。これにより、従業員が作業しやすく快適な環境を実現するとともに、消費電力

量を約48%も削減することができました。

また屋根面に太陽光発電パネル3,048枚を設置し、既存の太陽光発電設備と合計すると、民間企業では国内最大規模の出力1,130kWを確保しています。さらに全工場敷地に35%の緑地スペースを確保することでCO₂の低減に寄与、こうした環境配慮は『2005年度(財)日本緑化センター会長賞』受賞という栄誉にも浴しました。

新工場の稼働により、日・欧・米の市場で注目が高まるホールガーメント®横編機をはじめとする主要製品の生産能力を約20%引き上げることが可能となります。当社は新工場を拠点に、高まる需要に向けて、迅速な納期、安定した品質、充実したサービスでお応えする体制を強化していきます。



出力610kWの太陽光発電

太陽光発電設備の導入による二酸化炭素削減効果は、年間約472トン。これはクスノキ約1,200本の植樹に相当します。



天井からの自然採光

屋根の形状を工夫し自然光を採り入れることによって、人と環境にやさしい空間が実現しました。



ランニングコストを年間約35%低減

太陽光発電設備の導入、屋根・壁面の断熱性能の向上、インバーター空調および熱交換型換気システムの採用により、工場全体のランニングコストを大幅に低減しました。



開放的な空間づくり

トップライト部梁トラス化や、良質で強度の高い鋼材の使用により、開放的な空間を実現するとともに耐震性の向上も図りました。

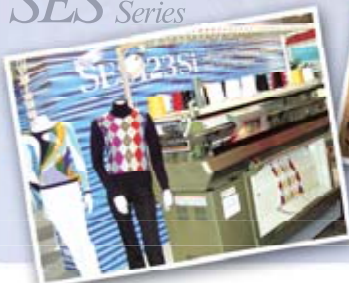


従業員の声

「天井が高く、開放感がある」、「大きく広いので、人の動きや流れがよく見え、作業効率が大幅にアップした」、「ネットワーク管理により、一元化したモノづくりを先取りしたモデル工場を目指している」…といった声を聞くことができました。

こんな製品を作っています

SES Series



LAPIS

SWG Series



株主優待の ご紹介

当社は、毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しています。

3月期のご優待では毎期趣向を凝らし、国内では入手が困難なイタリア直輸入製品(ワイン、レース、ベネチアグラスなど)や、当社の事業への理解をより深めていただきたいとの思いから、横編機で編み立てられたオリジナルのホールガーメント®(無縫製ニット)製品などを特別企画品としてお届けしてきました。

当社は今後も、株主の皆様にお喜びいただけるご優待を実施したいと考えております。

WHOLEGARMENT®

The Original Complete Garment

2006

今回のご優待といたしましては、昨年に引き続き、ホールガーメント®等のニット製品のお届けを予定しております。

なお、ご優待のニット製品は、製造の都合により、株主の皆様へのお届けは秋頃を予定しております。

何とぞ、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

※ 内容の詳細につきましては、改めてご案内させていただきます。

これまでの3月期の株主優待品 ※ご所有の株数によりお届けしました製品は異なっております。

2005



ニット製品

2004



調味料セット



ショール



ブランケット

2003



イタリアワイン

2002 ホールガーメント®製品



カーディガンとセーター



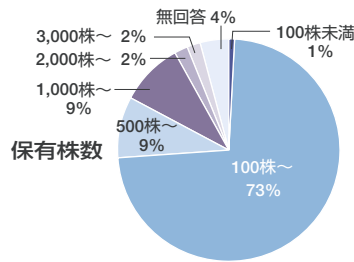
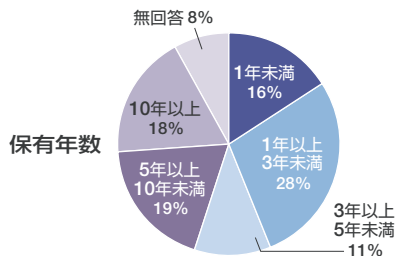
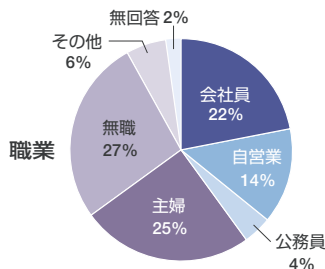
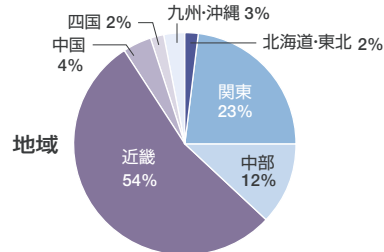
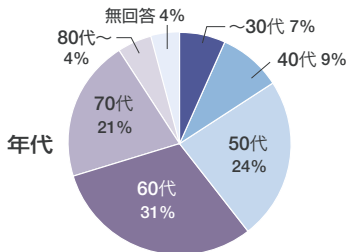
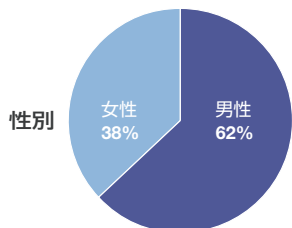
ネックウォーマー



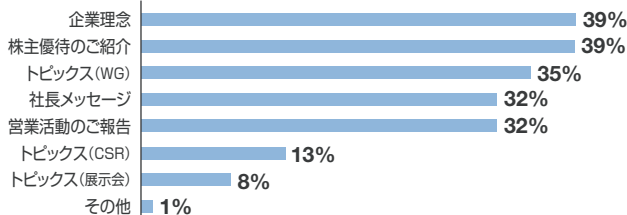
マフラー

第45期中間事業報告書(2005年9月期)においてアンケートを実施しましたところ、約3,500名の株主の皆様からご回答をいただきました(回答率:17.6%)。ご協力ありがとうございました。いただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、さらなるIR活動の充実に努める所存ですので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた株主様のプロフィール

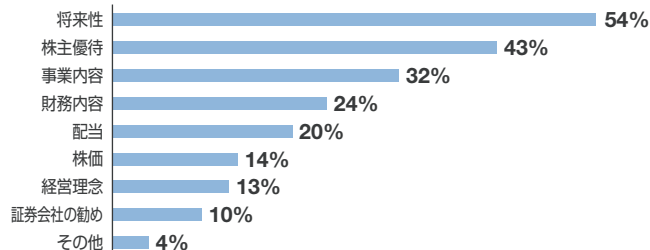


Q.1 今回の事業報告書で特に興味を持たれた内容はどれでしょうか?(複数回答)



第45期中間事業報告書において、株主の皆様は、「企業理念」「株主優待」「トピックス(WG:ホールゲーム)」に高いご関心をお持ちいただいたことがわかりました。

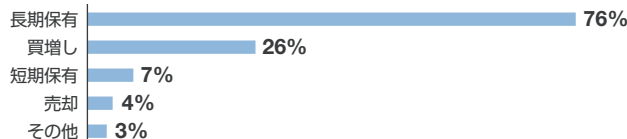
Q.2 当社の株式を購入された理由は何ですか?(複数回答)



当社の株式をご購入いただいた理由については、「将来性」「株主優待」「事業内容」の順に、高い回答率となりました。

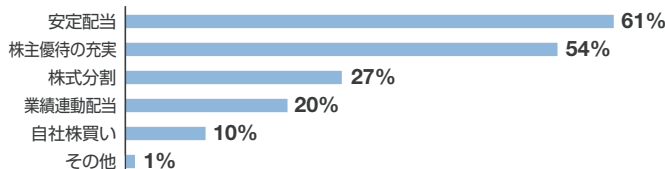
※数値は全回答数に対する比率を表します。

Q.3 当社の株式について今後どのようにお考えですか？(複数回答)



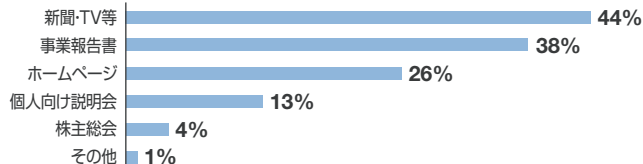
「長期保有」が76%、「買増し」が26%であった一方、「短期保有」は7%、「売却」は4%であり、長期保有の運用方針をお持ちの株主様が多いことがわかりました。

Q.4 株主還元に関して当社に期待されることは何ですか？(複数回答)



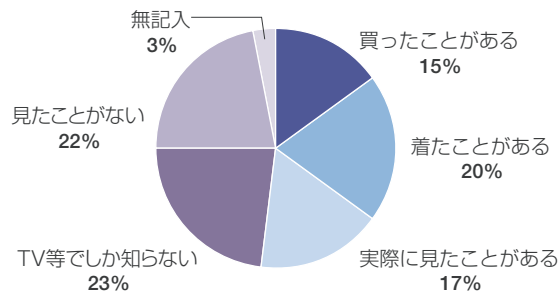
株主還元については、「安定配当」と「株主優待の充実」が50%を超える回答率であり、高いご期待をお寄せいただいていることがわかりました。

Q.5 会社情報を提供する手段として当社が今後充実すべきなのは？(複数回答)



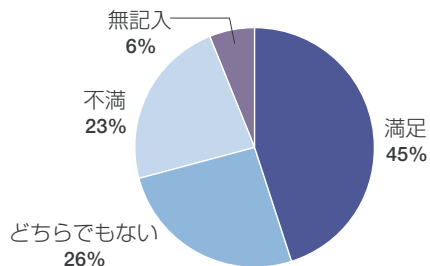
「新聞・TV等」「事業報告書」「ホームページ」の順に、充実すべきとのご回答を多くいただきました。

Q.6 当社の編機で作られるホールゲーム®についてお聞かせください。



「買ったことがある」「着たことがある」「実際に見たことがある」とご回答いただいた株主様が半数を超えました。より多くの皆様に親しんでいただけるよう、当社はこれからもホールゲーム®の普及に尽力してまいります。

Q.7 当社の株主優待制度の内容についてお聞かせください。



当社はこれまで、特色のある株主優待を積極的に実施してきました。今後も皆様によりご満足いただける優待品を企画・提供してまいります。

今回の株主様アンケートでは質問事項へのご回答の他に、多くの皆様から当社へのご意見・ご要望等をいただきました。ここでは代表的なご質問につきまして、回答させていただきます。

Q. 販売管理費が増加しているのはなぜですか？

A 当社のホールガーメント®横編機のさらなる浸透と拡販を図るために、2005年7月に開催したホールガーメント®10周年記念のファッションショーや同年11月にイタリア・ミラノで行われたIKMEへの出展など、大きなイベントに参加したため、それに要した広告宣伝費や研究開発費が増加しました。このような営業経費は、戦略的先行投資と位置づけており、イベントや展示会を通じて当社の製品の良さが理解され、以後の販売に結びつくものと考えています。



Q. 業界内のシェアはどれぐらいですか？

A 横編機の分野では、国内に競合他社はありません。海外では、特にドイツのメーカーが競合先になっています。当社の独自集計では、現在の当社の世界シェアは60%と推定しています。なお、手袋編機の分野では、昨今中国で模倣機が作られるなどの動きがありますが、依然圧倒的なシェアを有しています。

Q. 編機に関する特許関係の情報が知りたいのですが？

A 当社では、創業当初から「世界初」の製品づくりという目標を掲げ、製品開発を行ってきました。特許に関しましても国内外で数多く取得しており、この項でその詳細をご説明することはできませんが、当社の横編機に関しましては、約2,000件の国内外特許を取得。特許率、特許実施率、外国出願率で、高水準を維持しています。

Q. 株価が低迷しているのはなぜですか？その対策は？

A 現在、当社の株価が低迷している直接の原因としては、当期の業績予想を二度にわたって下方修正したためと考えられます。この対策として、ホールガーメント®横編機に代表される、世界にない、競争力の高い商品を今後とも開発するとともに、為替変動による利益への影響を少なくし、業績の向上に努めることが、株価の回復に結びつくものと考えて経営にあたっています。

Q. ファッションショーは東京で開催すべきでは？

A 今回当社が行ったファッションショーは、国内外の主要なアパレル、流通、小売業者様をご招待して開催したのですが、単なるショーではなく、ホールガーメント®横編機によるモノづくりのあり方やシステム、並びにホールガーメント®そのものをご理解いただき、本機のさらなる浸透と拡販を図る最良の手段として実施しました。このため、サンプル展示や各種提案など、設備やスタッフが充実している本社のある和歌山で開催しました。



連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当 期 2006年3月31日現在	前 期 2005年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	76,573	76,862
現金及び預金	9,976	10,187
1 受取手形及び売掛金	53,624	55,581
その他	15,880	13,345
貸倒引当金	△ 2,909	△ 2,253
固定資産	32,729	30,372
2 有形固定資産	19,449	18,205
土地	10,645	10,611
その他	8,804	7,594
無形固定資産	143	138
投資その他の資産	13,136	12,028
投資有価証券	5,785	4,447
その他	8,492	8,555
貸倒引当金	△ 1,141	△ 975
資産合計	109,302	107,234

科目	当 期 2006年3月31日現在	前 期 2005年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	11,307	12,550
支払手形及び買掛金	4,231	5,429
その他	7,076	7,121
固定負債	2,472	2,384
退職給付引当金	1,547	1,498
その他	925	886
負債合計	13,780	14,935
(少数株主持分)		
少数株主持分	191	183
(資本の部)		
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	65,008	63,381
土地再評価差額金	△ 4,493	△ 5,135
その他有価証券評価差額金	913	155
為替換算調整勘定	5	△ 189
自己株式	△ 2,687	△ 2,680
3 資本合計	95,330	92,115
負債、少数株主持分及び資本合計	109,302	107,234

POINT

1 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は前期末に比べて19億56百万円減少しました。

2 有形固定資産

新工場建設等により有形固定資産は12億44百万円増加しました。

3 資本合計

資本合計は前期末に比べて32億15百万円増加し、株主資本比率は87.2%となりました。

4 売上高

中国製繊維製品の輸出急増による欧米との貿易摩擦が業界全体の設備投資に影響し、前期比17.8%の減収となりました。

5 営業利益

売上高の減少に加え、イベント費用等の販売費及び一般管理費が増加し、前期比56.5%減となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2005年4月1日から 2006年3月31日まで	2004年4月1日から 2005年3月31日まで
4 売上高	37,879	46,094
売上原価	21,100	25,276
売上総利益	16,779	20,817
販売費及び一般管理費	12,756	11,559
5 営業利益	4,023	9,257
営業外収益	1,699	462
営業外費用	87	356
6 経常利益	5,634	9,363
特別利益	—	227
特別損失	341	72
税金等調整前当期純利益	5,293	9,518
法人税、住民税及び事業税	2,202	2,739
法人税等調整額	△ 302	813
少数株主利益又は損失 (△)	△ 11	34
7 当期純利益	3,404	5,930

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2005年4月1日から 2006年3月31日まで	2004年4月1日から 2005年3月31日まで
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	21,724	21,724
資本剰余金増加高	0	0
資本剰余金期末残高	21,724	21,724
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	63,381	60,408
利益剰余金増加高	3,704	5,930
利益剰余金減少高	2,076	2,957
利益剰余金期末残高	65,008	63,381

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2005年4月1日から 2006年3月31日まで	2004年4月1日から 2005年3月31日まで
8 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,754	3,346
9 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,512	△ 819
10 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,386	△ 823
現金及び現金同等物に係る換算差額	159	24
現金及び現金同等物の増加額	15	1,728
現金及び現金同等物の期首残高	8,998	7,269
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	96	—
11 現金及び現金同等物の期末残高	9,110	8,998

6 経常利益

為替差益が生じたことにより、減益幅は緩和され前期比39.8%減となりました。

7 当期純利益

固定資産の減損損失を特別損失に計上し、前期比42.6%の減益となりました。

8 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の減少などにより、営業活動による収入が前期に比べ14億7百万円増加しました。

9 投資活動によるキャッシュ・フロー

新工場建設等の有形固定資産の取得や投資有価証券の取得などにより、投資活動による支出が増加しました。

10 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による支出はおもに配当金の支払いによるものです。

11 現金及び現金同等物の期末残高

現金及び現金同等物の当期末残高は前期末に比べ1億12百万円増加しました。

会社概要 (2006年3月31日現在)

商号 株式会社島精機製作所
 (英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
 本社 和歌山市坂田85番地
 創立 1962年2月4日
 資本金 148億5,980万円
 従業員 1,051名(連結1,316名)
 事業内容 コンピュータ横編機
 シームレス手袋編機 靴下編機
 コンピュータデザインシステム
 ニットCADシステム
 アパレルCAD/CAMシステム

事業所 (2006年6月29日現在)

本社 和歌山市坂田85番地
 支店 東京支店(東京都中央区)
 大阪支店(大阪市北区)
 名古屋支店(名古屋市中区)
 泉州支店(大阪府泉大津市)
 営業所 山形営業所(山形県山形市)
 福島営業所(福島県伊達市)
 新潟営業所(新潟県五泉市)
 甲府営業所(山梨県中巨摩郡昭和町)
 四国営業所(香川県東かがわ市)
 海外支店 台北支店(台北市)

役員 (2006年6月29日現在)

役名	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正博	
専務取締役	田中 雅夫	総務部、内部監査室担当兼 経理部長
常務取締役	岩倉 煌一	経営管理部長
取締役	京谷 実	生産技術部長
取締役	森田 敏明	資材部長
取締役	和田 隆	製造技術部長
取締役	後藤 明史	営業部長兼 トータルデザインセンター部長
取締役	島 三博	グラフィックシステム開発部長
取締役	片桐 正二郎	企画部長
取締役	梅田 郁人	輸出部長
取締役	藤田 紀	総務部長
取締役	有北 礼治	メカトロ開発部長
常勤監査役	大川 修	
常勤監査役	沖殿 俊幸	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	八杉 昌利	税理士

(注)監査役 的場悠紀、八杉昌利の両氏は、社外監査役であります。

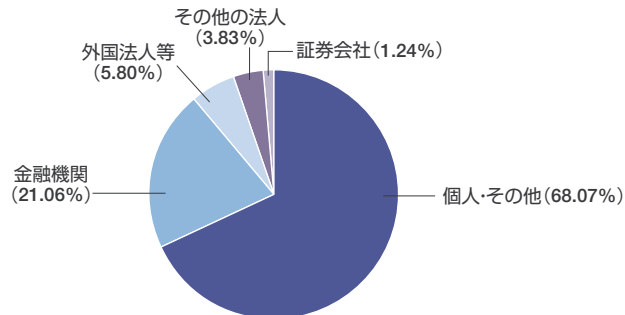
株式の状況(2006年3月31日現在)

- ①会社が発行する株式の総数…142,000,000株
- ②発行済株式の総数…37,600,000株
- ③当期末株主数…17,533名
- ④大株主

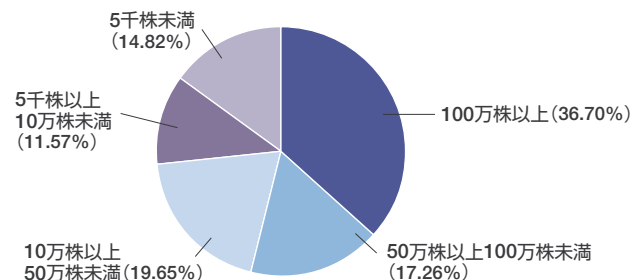
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
島 正 博	4,685	12.46
後 藤 明 史	2,390	6.36
島 三 博	1,980	5.27
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,322	3.52
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	1,285	3.42
和島興産株式会社	1,130	3.01
シマセイキ社員持株会	1,008	2.68
株式会社紀陽銀行	898	2.39
株式会社三菱東京UFJ銀行	730	1.94
島 節 子	726	1.93

(注)当社は、自己株式936千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

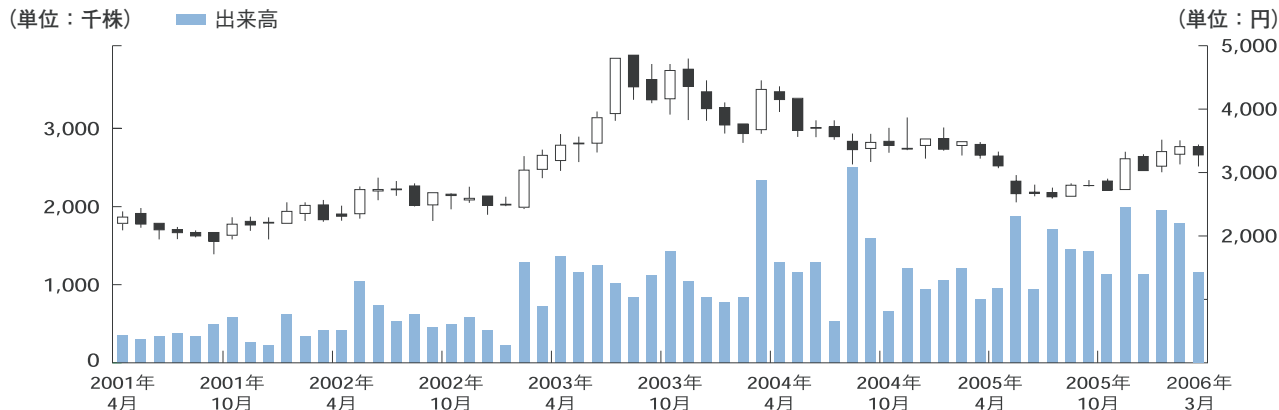
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移(過去5年間)



株主メモ

決算期 毎年3月31日

期末配当の基準日 3月31日

中間配当の基準日 9月30日

定時株主総会 毎年6月下旬

公告方法 電子公告

(アドレス)<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>

電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号

(お問合せ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

電話(0120)094-777(フリーダイヤル)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店

- 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-244-479(本店証券代行部)

0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



ホームページのご案内

当社ホームページでは、IR情報をはじめ多くの情報を公開しています。当社が作成したニットサンプルなども、定期的に更新していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.shimaseiki.co.jp/>



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL (073) 471-0511

WHOLEGARMENT、ホールガーマメントは株式会社島精機製作所の登録商標です。



地球環境に配慮した再生紙を使用しています。